

平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月9日

上場取引所 大

上場会社名 ゼット株式会社

コード番号 8135 URL <http://zett.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 渡辺泰男

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理統括本部長

(氏名) 池下正憲

TEL 06-6779-1171

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 22年3月期第3四半期 | 28,860 | △5.9 | △511 | — | △464 | — | △470 | — |
| 21年3月期第3四半期 | 30,672 | — | △51 | — | △11 | — | △152 | — |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 22年3月期第3四半期 | △23.65 | — |
| 21年3月期第3四半期 | △7.59 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 22年3月期第3四半期 | 21,764 | 9,070 | 41.7 | 456.49 |
| 21年3月期 | 21,669 | 9,662 | 44.6 | 485.39 |

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 9,070百万円 21年3月期 9,658百万円

2. 配当の状況

| | 1株当たり配当金 | | | | |
|----------------|----------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 21年3月期 | — | 0.00 | — | 7.00 | 7.00 |
| 22年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 22年3月期 (予想) | — | — | — | 7.00 | 7.00 |

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|------|---|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 40,000 | △2.9 | △70 | — | △25 | — | △230 | — | △11.58 |

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|-------------|-------------|--------|-------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 22年3月期第3四半期 | 20,102,000株 | 21年3月期 | 20,102,000株 |
|---------------------|-------------|-------------|--------|-------------|

| | | | | |
|-----------|-------------|----------|--------|----------|
| ② 期末自己株式数 | 22年3月期第3四半期 | 232,124株 | 21年3月期 | 204,190株 |
|-----------|-------------|----------|--------|----------|

| | | | | |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) | 22年3月期第3四半期 | 19,878,492株 | 21年3月期第3四半期 | 20,029,822株 |
|----------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

注. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部において政府の景気対策効果が見られたものの、依然として続く雇用・所得環境の厳しさから個人消費の低迷が続き、さらにデフレの進行や円高基調で推移する為替相場による企業収益の悪化に伴い景気の二番底懸念も広まり、依然として景気回復への先行き不透明感は払拭できず、厳しい状況で推移いたしました。

当スポーツ用品業界におきましても、消費者の生活防衛による節約志向・低価格志向が一段と強まるなか、新型インフルエンザの影響もあり、消費マインドはより一層冷え込み、またデフレ環境下における価格競争は一段と厳しさを増すなど、厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中で当社グループは、「プロ化の徹底」を通じ計画執行力を高め、①自社品の拡充、②外商・スクール、アスレマーケットへの対応強化、③ライフスタイルマーケットへの対応強化、④ボディケアマーケットへの対応強化、⑤コスト競争力の強化を課題に取り組み、業績向上に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は28,860百万円(前年同四半期比5.9%減)、営業損失は511百万円(前年同四半期は営業損失51百万円)、経常損失は464百万円(前年同四半期は経常損失11百万円)、四半期純損失は470百万円(前年同四半期は四半期純損失152百万円)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

①スポーツ事業

(卸売部門)

卸売部門は、販売競争が激化するなか、デフレの影響による販売単価の下落や消費者の生活防衛意識の高まりによる個人消費の低迷の影響は大きく、苦戦を強いられました。そのなか当社において、昨シーズンにプロ野球球団「東京ヤクルトスワローズ」とホームゲーム用ユニホーム関連のオフィシャルサプライヤー契約を締結し、「ゼット」野球用品の露出効果を高めるとともに、販売促進活動を強化し、一定の好評価を得ました。しかしながら、「外商・スクール」及び「アスレ」マーケットは、健康志向の高まりのなか、ランニング市場は好調に推移したものの、野球・ソフト用品、サッカー用品等の競技色の強い用品は、個人消費の冷え込みや新型インフルエンザの影響もあり苦戦を強いられ、低調に推移いたしました。「ライフスタイル」マーケットも、特に長引く個人消費の低迷の影響は大きく、またトレンドの変化によるグローバルブランドの人气が低下したことや価格競争の激化等もあり、フットウェア、スポーツアパレルとも大苦戦を強いられ、低調に推移いたしました。「ボディケア」マーケットは、消費者の健康志向へのニーズや「コンプレッション」アンダーウェアの人气は引き続き高いものの、競合商品が増加したことにより販売競争は厳しさを増し、苦戦を強いられました。

この結果、売上高は26,983百万円(前年同四半期比5.8%減)となりました。

(製造部門)

製造部門は、商品企画、開発力、品質管理の強化に努めたものの、国内においては卸売部門の影響や消費者の節約志向もあり、「ゼット」ブランドの野球・ソフト用品、「コンバース」ブランドのバスケットボール用品は、苦戦を強いられましたが、野球・ソフト用品の海外販売は好調に推移しております。健康関連用品においては、「コンプレッション」アンダーウェアの「4DM」ブランドは競合商品が増加したなか堅調に推移いたしました。なお、「加圧」トレーニング専用ウェアは苦戦を強いられ、低調に推移いたしました。なお、「加圧」トレーニング専用ウェアについては、新しく野球の差別化商品として、野球専用の「加圧」トレーニングウェア「ベースボールカーツ」を企画・開発し、平成21年12月から販売を開始し、今後の販売を大いに期待をしております。

この結果、売上高は621百万円(前年同四半期比12.8%減)となりました。

(小売部門)

小売部門は、個人消費の低迷の影響が大きく、アパレル・フットウェアは、トレンドの変化や消費者の低価格志向に対応すべく、クリアランスセールを例年より早く実施するとともにユーザーに対するライフスタイルの新しい提案を積極的に仕掛けましたが、苦戦を強いられ、スキー・スノーボード等のウィンター関連商品も、若者のスキー離れも影響し、低調に推移いたしました。一方アウトドア用品は、健康志向の高まりのなか富士山登山の人气による女性客の増加や冬山登山関連商品の販売が好調なこともあり堅調に推移いたしました。全体をカバーするに至らず苦戦を強いられました。

この結果、売上高は868百万円(前年同四半期比5.0%減)となりました。

(その他部門)

物流部門は、益々小口多頻度出荷や流通加工の増加によりコストアップするなか、卸売部門の影響による取り扱い高の減少により苦戦を強いられました。スポーツ施設運営は、会員数のアップを図るべく独自の販売促進活動の強化や「加圧」トレーニングプログラムを積極的に取り入れましたが計画を達成できず、また消費者の節約志向が高まるなか、低単価の会員入会の傾向が顕著になり、苦戦を強いられました。なお、平成21年4月に設立しましたスポーツ用品業界に特化した共同物流の合弁会社㈱ジャスプロは、当第3四半期連結累計期間末までは当社の物流しか取り扱いをしておりません。

この結果、売上高は373百万円(前年同四半期比3.5%減)となりました。

上記の結果、スポーツ事業の売上高は28,847百万円(前年同四半期比5.9%減)、営業損失は467百万円(前年同四半期は営業利益27百万円)となりました。

②アパレル事業

個人消費の低迷の影響は予想以上に大きく、買い上げ客数は伸び悩み、業績は当初計画に届かず苦戦が続いているため、平成21年9月開催の取締役会において、アパレル事業からの撤退を決議いたしました。

この結果、アパレル事業の売上高は13百万円(前年同四半期比54.0%増)、営業損失は44百万円(前年同四半期は営業損失78百万円)となりました。

(注)所在地別セグメントの業績については、全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%超であるため、記載を省略しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産の状況)

①資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は21,764百万円となり、前連結会計年度末に比べ95百万円増加いたしました。

流動資産は15,732百万円となり、前連結会計年度末に比べ121百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が1,863百万円減少したものの、現金及び預金136百万円、商品及び製品が1,586百万円、仕掛品が38百万円、繰延税金資産56百万円、その他流動資産が147百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は6,030百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円減少いたしました。これは主に、有形固定資産が13百万円、投資その他の資産が9百万円減少したこと等によるものであります。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は12,694百万円となり、前連結会計年度末に比べ687百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が128百万円、賞与引当金が201百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が1,047百万円増加したこと等によるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は9,070百万円となり、前連結会計年度末に比べ591百万円減少いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が27百万円増加したものの、剰余金の配当139百万円及び当第3四半期純損失470百万円を計上したこと等により、利益剰余金が609百万円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動により403百万円獲得し、投資活動により59百万円使用し、財務活動により205百万円使用した結果、前連結会計年度末に比べ136百万円増加し、2,913百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、403百万円(前年同四半期比289百万円減)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失488百万円、賞与引当金の減少による支出201百万円、たな卸資産の増加による支出1,630百万円、法人税等の支払額203百万円があったものの、売上債権の減少による収入1,863百万円や仕入債務の増加による収入1,047百万円があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、59百万円(前年同四半期比34百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出56百万円や無形固定資産の取得による支出2百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、205百万円(前年同四半期比49百万円減)となりました。これは主に、長期借入れによる収入200百万円があったものの、長期借入金の返済による支出266百万円や配当金の支払額138百万円があったこと等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期通期連結業績予想につきましては、概ね予想の範囲で推移しているため平成21年11月9日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

② 繰延税金資産の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法を適用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日) |
|-------------|--------------------------------|--|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,913 | 2,776 |
| 受取手形及び売掛金 | 8,037 | 9,900 |
| 商品及び製品 | 4,001 | 2,414 |
| 仕掛品 | 118 | 80 |
| 原材料及び貯蔵品 | 100 | 94 |
| 繰延税金資産 | 281 | 224 |
| その他 | 291 | 144 |
| 貸倒引当金 | △11 | △25 |
| 流動資産合計 | 15,732 | 15,611 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 4,289 | 4,295 |
| 減価償却累計額 | △2,648 | △2,567 |
| 建物及び構築物(純額) | 1,640 | 1,728 |
| 土地 | 2,443 | 2,443 |
| その他 | 1,100 | 970 |
| 減価償却累計額 | △863 | △807 |
| その他(純額) | 237 | 162 |
| 有形固定資産合計 | 4,321 | 4,334 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 57 | 55 |
| 無形固定資産合計 | 57 | 55 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 725 | 675 |
| 長期貸付金 | 45 | 49 |
| 敷金 | 459 | 504 |
| 繰延税金資産 | 33 | 38 |
| その他 | 510 | 485 |
| 貸倒引当金 | △122 | △92 |
| 投資その他の資産合計 | 1,651 | 1,660 |
| 固定資産合計 | 6,030 | 6,051 |
| 繰延資産 | | |
| 開業費 | 1 | 6 |
| 繰延資産合計 | 1 | 6 |
| 資産合計 | 21,764 | 21,669 |

(単位：百万円)

| | 当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日) | 前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 9,064 | 8,017 |
| 短期借入金 | 770 | 742 |
| 未払法人税等 | 36 | 165 |
| 未払消費税等 | 9 | 61 |
| 賞与引当金 | 160 | 362 |
| その他 | 589 | 615 |
| 流動負債合計 | 10,630 | 9,964 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 583 | 677 |
| 退職給付引当金 | 317 | 302 |
| その他 | 1,162 | 1,062 |
| 固定負債合計 | 2,063 | 2,042 |
| 負債合計 | 12,694 | 12,007 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,005 | 1,005 |
| 資本剰余金 | 2,968 | 2,968 |
| 利益剰余金 | 4,975 | 5,585 |
| 自己株式 | △40 | △35 |
| 株主資本合計 | 8,909 | 9,523 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 163 | 135 |
| 繰延ヘッジ損益 | △0 | △0 |
| 為替換算調整勘定 | △1 | — |
| 評価・換算差額等合計 | 161 | 134 |
| 少数株主持分 | — | 3 |
| 純資産合計 | 9,070 | 9,662 |
| 負債純資産合計 | 21,764 | 21,669 |

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 30,672 | 28,860 |
| 売上原価 | 24,047 | 22,679 |
| 売上総利益 | 6,625 | 6,180 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 広告宣伝費 | 706 | 632 |
| 運賃及び荷造費 | 534 | 472 |
| 賃借料 | 383 | 360 |
| 役員報酬及び給料手当 | 2,610 | 2,571 |
| 貸倒引当金繰入額 | 8 | 48 |
| 賞与引当金繰入額 | 184 | 160 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 6 | — |
| 減価償却費 | 146 | 133 |
| その他 | 2,093 | 2,310 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 6,676 | 6,691 |
| 営業損失(△) | △51 | △511 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1 | 1 |
| 受取配当金 | 14 | 13 |
| 受取賃貸料 | 27 | 18 |
| 業務受託料 | 21 | 14 |
| 保険配当金 | 9 | 2 |
| その他 | 14 | 36 |
| 営業外収益合計 | 88 | 87 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 19 | 13 |
| 売上割引 | 19 | 19 |
| その他 | 11 | 6 |
| 営業外費用合計 | 49 | 40 |
| 経常損失(△) | △11 | △464 |
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 9 | 20 |
| 投資有価証券売却益 | 0 | — |
| 特別利益合計 | 9 | 20 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 4 | — |
| 減損損失 | 24 | 23 |
| 事業撤退損 | — | 21 |
| 投資有価証券評価損 | 13 | — |
| 投資有価証券売却損 | 0 | — |
| 特別損失合計 | 43 | 44 |
| 税金等調整前四半期純損失(△) | △45 | △488 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 29 | 28 |
| 過年度法人税等 | — | 43 |
| 法人税等調整額 | 85 | △70 |
| 法人税等合計 | 114 | 1 |
| 少数株主損失(△) | △7 | △19 |
| 四半期純損失(△) | △152 | △470 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純損失 (△) | △45 | △488 |
| 減価償却費 | 154 | 146 |
| 減損損失 | 24 | 23 |
| 事業撤退損失 | — | 14 |
| 有形固定資産除却損 | 0 | — |
| 投資有価証券売却損益 (△は益) | 0 | — |
| 投資有価証券評価損益 (△は益) | 13 | — |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △9 | 15 |
| 賞与引当金の増減額 (△は減少) | △193 | △201 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | △25 | — |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 12 | 14 |
| 役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少) | △361 | — |
| 受取利息及び受取配当金 | △16 | △14 |
| 支払利息 | 19 | 13 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | 1,421 | 1,863 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | △836 | △1,630 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 623 | 1,047 |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少) | △51 | △52 |
| その他 | 287 | △146 |
| 小計 | 1,018 | 605 |
| 利息及び配当金の受取額 | 16 | 14 |
| 利息の支払額 | △19 | △13 |
| 法人税等の支払額 | △322 | △203 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 693 | 403 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △85 | △56 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △9 | △2 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △3 | △3 |
| 長期貸付金の回収による収入 | 11 | 10 |
| 長期貸付けによる支出 | △10 | △6 |
| その他 | 4 | — |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △93 | △59 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △200 | — |
| 長期借入れによる収入 | 400 | 200 |
| 長期借入金の返済による支出 | △218 | △266 |
| 配当金の支払額 | △139 | △138 |
| 少数株主からの払込みによる収入 | 14 | 16 |
| その他 | △12 | △16 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △156 | △205 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | — | △1 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 443 | 136 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,065 | 2,776 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,509 | 2,913 |

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

| | スポーツ事業 (百万円) | アパレル事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|---------------------------|-----------------|-----------------|------------|-----------------|-------------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 30,664 | 8 | 30,672 | — | 30,672 |
| (2) セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 30,664 | 8 | 30,672 | — | 30,672 |
| 営業利益又は営業損失(△) | 27 | △78 | △51 | — | △51 |

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

| | スポーツ事業 (百万円) | アパレル事業 (百万円) | 計 (百万円) | 消去又は全社 (百万円) | 連結 (百万円) |
|---------------------------|-----------------|-----------------|------------|-----------------|-------------|
| 売上高 | | | | | |
| (1) 外部顧客に対する売上高 | 28,847 | 13 | 28,860 | — | 28,860 |
| (2) セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 28,847 | 13 | 28,860 | — | 28,860 |
| 営業損失(△) | △467 | △44 | △511 | — | △511 |

(注) 1. 事業区分の方法

商品及び製品の種類性質及び販売方法の類似性を考慮し区分しております。

2. 各区分に属する主要な事業内容

| 事業区分 | 主要な事業内容 |
|--------|---|
| スポーツ事業 | 野球用品、サッカー用品、テニス・バドミントン用品等の卸売、野球用品、健康用品等の企画・製造・販売、スポーツ小売、その他スポーツ附随事業 |
| アパレル事業 | アメリカのジュエリーブランドである「ロイヤルオーダー」のアパレル製造・販売 |

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び支店等がないため、該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間

(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

6. その他の情報

該当事項はありません。